

「子ども大学はにゅう」を開催して

牛 込 彰 彦
(こども学科 教授)

平成23年度、「羽生市学びあい夢プロジェクト」の一環として実施した「子ども大学はにゅう」について、その概要を報告する。

1. 趣旨

「羽生市学びあい夢プロジェクト」の一環として、子どもの知的好奇心を満足させる学びの機会を提供することにより子どもたちの健全育成を図るため、県、関係機関が連携し、「子ども大学はにゅう」を開催する。

2. 主催及び関係協力諸機関等

主 催：子ども大学はにゅう実行委員会

協力組織：(学) 埼玉純真短期大学・羽生市教育委員会・(社) 羽生青年会議所・羽生市青少年相談員協議会・埼玉県教育局

3. 実施方法

(1) 募集対象および人数

小学校4年生から6年生・40名

(2) 募集方法：

市広報で周知するほか、小学校を通じ対象学年全員へ募集案内を配布

(3) 申込方法：

子ども大学はにゅう参加申込書に必要事項を記入の上、羽生市教育委員会生涯学習課へ提出（郵送・FAX可）。定員を超えた場合は抽選。

(4) 参加費：

1,000円（材料費・保険料）

(5) その他：

子どもの送迎については、市内会場に限り保護者が責任を持って行う。
各回とも保護者の見学参加を可とする。

4. 学習プログラム

第1日 9月10日（土） 場所：埼玉純真短期大学

・入学式 学 長：藤田利久（埼玉純真短期大学学長）

副学長：小島敏之（羽生市教育長）

実行委員長：伊藤道雄（埼玉純真短期大学教授）

1時間目：「気球に乗ってどこまでも」牛込彰彦（埼玉純真短期大学教授）

2時間目：「自分の化身の小さな土偶を作ろう」小日向千秋（埼玉純真短期大学講師）

第2日 10月8日（土） 場所：永明寺（ようめいじ）

1・2時間目：「古代へ夢をもって・永明寺古墳の発掘作業」羽生市学芸員

第3日 10月22日（土） 場所：埼玉純真短期大学

1時間目：「元オリンピック選手がコツを教えます・すぐできるマット運動」

田中マキ子（埼玉純真短期大学講師）

2時間目：「音で表現する世界」小澤和恵（埼玉純真短期大学准教授）

第4日 11月5日（土） 場所：埼玉純真短期大学

1時間目：「みんなで、かけよう思いやりの魔法」東京ディズニーリゾート職員

2時間目：発表・交流会の準備
・修了式

* 11月20日に大宮ソニックスティにおいて、埼玉県内の子ども大学が集合して発表交流事業が行われ、「子ども大学はにゅう」からも多くの受講生およびその保護者が参加した。

5. 成果

今回、初めての試みとして、「子ども大学はにゅう」を実施した。関係諸機関との連携も良く、開催に際しては会議を重ねての実施となった。講義内容は、「はてな学」「ふるさと学」「生き方学」の各分野を網羅し、本学の教員および、外部団体の講師を招聘して実施した。子どもの感想からも、一人ひとりそれぞれの思いを抱き、大いに刺激を与えることが出来たと考えている。

本学の目的の一つである教育資源の地域への還元という意味で、一つの新たな価値を創造したと捉えている。引き続き来年度も実施する予定である。

6. 参加した子ども及び保護者の感想（抜粋）

こども

- * ぼくは子ども大学はにゅうに入学して良かったと思います。理由はどの講義もおもしろく、わかりやすいからです。永明寺古墳の発掘作業では、ぼくははにわのかけらをみつけました。先生に「これははにわですね」と言われてびっくりしました。ぼくは子ども大学で学んだことを、これからもいかしていきたいと思います。
- * ぼくがつくったには、「走る土偶」です。工夫したところは、早く走っているように、足を大きく前に出したことと、はちまきと、バトンを持っていることです。上手に出来上がっていました。
- * 元ソウルオリンピックの田中マキ子先生が、前転、後転、そく転などを教えてくれました。先生の言ったとうりにして、できました。
- * いろんながつきを使って、春・夏・秋・冬を音で表げんしました。ぼくは夏をしました。楽しかったです。

保護者

- * 初日のバルーンの実験をした日に「あー面白かった」と本当にうれしそうに話して帰ってきてくれました。毎回、やる気をもって参加していました。すてきな企画ありがとうございました。学長様が話して下さった「感動」を得ることができました。